



このままじゃあかん！ 専業社自ら行動を

生コン産業政策協議会（生コン産労・全港湾大阪支部・近畿圧送労組・連帯労組関生支部）は、1月24日に協同会館アソシエで第8回近畿生コン関連団体労使懇談会を開催した。

各地で成果、広域は逆行

懇談会の中で政策協議会は「湖東協組では昨年4月から値上げに取り組み、現在順調に推移している。その影響を受け、隣接する大津協組と湖北協組も値上げを打ち出している。

また、和歌山では休会していた協組が4月から連合会に合流する見通し。労使が協力して問題を解決している。さらに、奈良では1月からの値戻しに取り組んでいる。

その一方で、最も危機的状況にあるのが大阪。このままでは広域協組

協同組合のみならず業界自体が崩壊の危機！

のみならず、業界自体が破滅する。その一番の原因はセメントメーカーにある。メーカーは広域協組をセメント拡販に利用し、価格競争に引きずり込んだ。昨年10月には、広域協組・阪神協組・レディーミクス協組に呼びかけ「生コン値上げ」と称してセメント値上げを画策したが、失敗。しかも、その責任を誰も取らない。さらに、業界混乱の元凶である木村理事長を続投させようとしている。

メーカーと同罪の専業社

このように、メーカーに第一の責任があるが、専業社も同罪だ。どの社も倒産の淵に立ちながら、誰かが解決してくれるのをひたすら待っている。しかし、それは間違いだ。この危機を乗り越えるには、「専業社自らが行動するしかない」と提起した。

生コン産業政策協議会 (生コン産労・全港湾大阪支部・近畿圧送労組・関生支部) 大阪市西区川口2-4-28 Tel.06(6583)5546

政策協議会共同ニュース 2014年 1月25日号



いよいよ14春闘目前。
今春闘は「座して死を待つか
立って闘うか」の最終決断の
時。政策協議会は、腹をくくっ
て春闘に臨む！

覚悟決め、腹をくくって臨む春闘

次回は懇談会は
3/31(月)13:30(アソシエ)

1・24 近畿生コン関連団体労使懇談会開催

今春闘は選別ストライキ！

広域協組は「数量確保」と称して値下げに奔走。さらに敵と味方を見誤り、敵には塩を送り、本来は味方とすべき相手とは敵対。これでは協同組合を強く大きくすることはできない。

崩壊状態にある大阪。広域協組は方針を転換して業界再建へのリーダーシップを発揮すべきであり、同協組を実質的に支配するセメントメーカーの姿勢が今、鋭く問われている。

危機感のカケラもない広域協組

1月24日の第8回近畿生コン関連団体労使懇談会では、各団体がこの間の進捗状況を報告。その中で、広域協組の代表者は、同協組が目標出荷量に達していない現状、協業を行っていること、さらに互礼会での「1000円～1500円の値戻しをしたい」との木村理事長発言に期待していると報告。

これを受けて、政策協議会は「値下げをしても数量の確保はできないということは何年間も言い続けてきた。事実、出荷量は確保できていない。値崩れしている中で集約を行っても採算にはのらない。値戻しも口だけ。

和歌山で業界再建できたのは、業界崩壊の危機の中で労組敵視から協調に方針転換したからだ。当時、和歌山にも有力アウト企業が

あったが、労使が協力して協組に加入させ、値戻しすることができた。業界再建は労使の信頼関係があってこそできるものだ。なぜ、こうした他地域の成功例に学ぼうとしないのか！」と追及した。

大幅賃上げ・人員補充を求める

さらに、「今春闘は、大幅賃上げと人員補充を強く求める。特に、広域協組の加盟社には人員補充を迫っていく。そして、業界再建に協力する企業としない企業を明確に選別して、再建に協力しない企業には徹底的にストライキを決行する。そこまでしなければ業界再建に立ち上がらないからだ」と通告した。

過去の大阪地域や他地域の成功例に学ぶ事が求められている。「労使対立か協調か」今が決断の時だ。